☑ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp URL:htt://www.omachi-sanpaku.com 市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

10 月号

絕大町山岳博物館

第60巻第9号

無料 Free

 今月の1枚
 1ページ

 ・「さんぱく こども夏期だいがく — 山の妖怪ウォッチ —」を実施しました
 2ページ

 さんぱく研究最前線 — 北アルブスの自然と人 トピックス — 2ページ
 2ページ

 ・戦後70年に際して 収蔵資料から見る戦時下の登山 — 鹿島山荘の「登高記念」帳をめくる — 展示・イベントのご案内
 3ページ

 ・山の歴史ウォーキング 体感! 山岳文化都市おおまち — 高瀬入編 —
 ・どうぶつ写生画展&どうぶつ写生大会表彰式

 博物館のひろば ・ 大町高校の野外実習 ・ 大町高校の野外実習 ・ 自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウオッチ「セミのぬけがらを探せ!」
 ・ 大坂小児童クラブでの出張講座

 ・さんぱく ふぞくえんまつり ・チョウの観察会(3回目)



「さんぱく こども夏期だいがく — 山の妖怪ウォッチ — 」を実施しました

関 悟志

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1 TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133

山岳博物館では、夏休み期間中の小学生を対象とした催し「さんぱくこども夏期だいがく」を毎年開催しています。今年は平成27年8月6日に開催し、山岳にかかわる妖怪の説話伝承を紹介するとともに、博物館から鷹狩山山頂まで往復して、市内に残る山の妖怪"山姥"伝説の伝承地を訪ね、各見学ポイントで学芸員が解説を行いました。

この日は、はじめに博物館の講堂で山の妖怪についてスライドなどで説明し、事前学習を済ませた参加者全員で山姥伝説の現地見学に出発。鷹狩山山頂を目指して歩き出しました。暑さと登り坂に悪戦苦闘しながらも頂上に到着。足もとに広がる大町のまちと、薄雲に包まれながらも雄大なパノラマ風景のシルエットを見せてくれた北アルプスを目の前にして、一同歓声をあげました。

山頂で昼食をとった後、いよいよ山姥伝説が伝わる場所を訪ねました。

まずは、山頂にある神社「金刀比羅社(金刀比羅宮、金比羅神社)」を見学。かつて山姥に恋した讃岐(香川県)の金毘羅様(金毘羅権現)がはるばるやって来て暮らした場所と伝わる場所です。つぎに、神社の長い石段を下り、山頂から東側に少し下った場所にある「姥池」へ。山姥が愛用したと伝わる池ですが、現在は、かれて水がなく、かつての水面へ下る石段跡などがある小さな窪みを残すのみです。短時間の見学でしたが、参加者は池の跡へ下りるなどして探索を行いました。

博物館に戻ってから、参加者全員に修了証を授与して終了となりました。

今回の催しでは、タウンウォッチングやフィールドワークの手法を用いながら地域の山岳文化にふれることで、山岳文化都市・大町市の魅力を伝えることができました。さらに、鷹狩山など東山周辺地域を活用した教育普及活動の推進につながる好機にもなりました。 (市立大町山岳博物館 学芸員)

さんぱく研究最前線 一北アルプスの自然と人 トピックスー

戦後70年に際して 収蔵資料から見る戦時下の登山

一 鹿島山荘の「登高記念」帳をめくる 一

関 悟志

1945 (昭和20) 年8月15日、アジア・太平洋戦争は日本の降 伏で終結しました。今年2015 (平成27) 年は、戦後70年とい う節目の年を迎えます。

ここでは、戦後70年に際して、戦時下の登山の歴史の一端を知るとともに、平和の尊さにあらためて思いを巡らすためにも、当館で収蔵する山岳資料の中から、戦争と登山のかかわりを今に伝える資料のひとつをご紹介します。

鹿島山荘の「登高記念」帳

北アルプス後立山連峰の盟主として双耳峰の整った山容をもつ鹿島槍ヶ岳。その麓の大町市平鹿島にあった民宿・鹿島山荘は、この山を目指す登山者たちのベースとして親しまれました。 鹿島は大町市街地から北西に位置し、平家の落人伝説が残る山間の集落です。かつては猟師・樵や行商人くらいしか入ることがなかった閑静な場所でしたが、大正末期から昭和初期になると登山者が訪れはじめました。とりわけ、ここをアプローチとする鹿島槍ヶ岳では、学生山岳部による積雪期の激しい初登攀

争いが繰り広げられました。

1930 (昭和5)年12月、「鹿島のおばば」こと鹿島山荘の狩野きく能が立教大学学友会山岳部の堀田弥一に初めて記帳をすすめて以来、記帳され続けた民宿備えつけの登山記念帳。表紙に「登高記念」と記され、地元の宮本和紙を紙縒りで綴ったという手製の帳面には、昭和初期の鹿島槍ヶ岳登攀史に登場する岳人たちの名が数多く残されています。



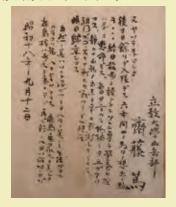
鹿島山荘の「登高記念」帳 個人蔵・市立大町山岳博物館保管 ※写真は1941(昭和16)年から1949(同 24)年の記帳が残る帳面の表紙部分です。

戦中の記帳をめくる

戦時中の「登高記念」帳をめくると、日中戦争や太平洋戦争が始まってからも鹿島山荘を訪れる登山者は途切れることはなかったようですが、戦争が激しさを増すにつれて記帳の数も徐々に少なくなり、1944(昭和19)年12月以降、終戦後の1946(昭和21)年4月まで記帳されることはありませんでした。その中で、1943(昭和18)年9月からは学徒兵入隊直前の学生などによって次のような墨跡が残されています※。

※ここでは、原文の表記を現代仮名遣い や常用漢字にあらためたり句読点を 加えたりするなど、編集を行いました。

「またやって来ました。あと 20日余りで入隊です。6年間 の数々の想い出の跡を・・・。(中 略)祖国がこの大きな戦いを 戦っている現在、明日帰京し ます。(中略)鹿島の里よ永久 に美しく、鹿島槍は永久に高 くあれ。再び訪れる日はいつ



の日ぞ。」(昭和18年9月12日、立教大学山岳部 齋藤篤)

「(前略) 鹿島の山は私の山生活の半分を占む。しかし通らぬルートは多い。それは兵隊から帰ってのこと。(田丸)」(昭和18年11月24日、立教大学山岳部田丸恒雄ほか)

「山にもお別れです。いつの日にかまた鹿島の里に来られるだろう。おじさん、おばさん、 達者で。」(昭和18年10月25日、立教大学山岳部薄井雄次)

これを記した薄井雄次は、 後に戦死し、鹿島槍ヶ岳を再 び訪れることはありませんで した。

「(前略) おじさん、おばさん、ばあさん、兵隊までにまた 参ります。お達者で・・・・ 中倉」 (昭和19年5月25日、立教大学山岳部中倉修ほか)

「(前略) いつも変らぬ和やかな当家の人達、なつかしい炉辺、美しい槍、これこそいかに多くの若人をはぐくみ雄々しく聖戦に立ちむかわしめたか。山は戦場に通ず。」

(昭和19年7月8日、日本山岳 会員 田淵行男)

写真家・ナチュラリストとして知られる田淵行男は、戦争が終結する1945 (昭和20)年に東京から信州安曇野へ疎開し、その後、写真家として本格的な活動に入りました。









アジア・太平洋戦争の戦時下、日本でどのような登山が行われていたのか、国内の登山界や岳人がどのような動きをしていたのか。当時の登山史を体系的に明らかにするような調査研究は、でく一部を除いて、これまでにほとんど行われてきていません。今後、各方面からの調査研究が進むことを期待しています。 (市立大町山岳博物館 学芸員)

今回ご紹介した資料については、1階展示室「山と人北アルプスと人とのかかわり」の「鹿島山荘と狩野きく能」展示コーナーに関連資料がありますので、ご参考にご覧ください。

展示・イベントのご案内

山岳博物館・友の会共催事業 「山の歴史ウォーキング 体感! 山岳文化都市おおまち -高瀬入編-」

北アルプスの麓である高瀬入周辺を活用し、大町に住む 人々が山とどのような関わりをもって暮らしたのか、紅葉 の季節、学芸員が一緒に歩きながら、高瀬入周辺の山岳文 化史を解説するウォーキングツアーを開催します。

大町市内にある北アルプスの山岳文化史ゆかりの地を巡る、今年第2回目の催しです。

今回は、紅葉真っ盛りの高瀬入、大町エネルギー博物館から葛温泉までの登り約8kmを歩きながら、各所にある山岳に関わる施設や史跡を巡り大町の歴史や民俗を学び、山岳文化都市・大町の魅力を再発見する機会とします。

見どころとしては、大正から昭和にかけての電源開発に 関わる施設や、江戸時代からの湯治場として栄えた葛温泉 までの湯道やそれに関わる石仏、そしてなにより秋の高瀬 入の紅葉。各ポイントで学芸員が解説を行います。

□主 催 市立大町山岳博物館 大町山岳博物館友の会

□日 時 平成27年10月24日(土)

午前9時~午後4時頃 ※雨天中止

□集 合 午前9時 大町エネルギー博物館駐車場

□解 散 午後4時頃 同 上

□対象・定員 小学4年生以上(小学生は保護者同伴)

先着20名

全行程(登り坂8㎞程度)を歩くことので

きる方。

□費用 一般 1,000 円 (保険代など)

※友の会会員は無料

(友の会が参加費を負担します)

□持ち物 昼食、飲み物、雨具、筆記用具、運動靴ほか

各自必要なもの。

□行程 大町エネルギー博物館駐車場集合(徒歩)

→大町ダム→高瀬渓谷緑地公園→展望広場 →仙人岩→葛温泉→(帰りはバスにてエネ

ルギー博物館へ)エネ博見学・解散

□申し込み 10月14日(水)までに、電話、ファックス

または直接、山岳博物館へご連絡ください。ファックスの場合は、住所、氏名、電話番

号を記載。

□問い合わせ先 山岳博物館 TEL22-0211 FAX21-2133



(仙人岩)

山岳博物館 市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日(家庭の日)とその前日の土曜日を「大町市民 無料開放デー」としています。10月は17日(土)と18日(日)です。

どうぶつ写生画展& どうぶつ写生大会表彰式

山岳博物館の付属園では、8月8日から8月16日まで「ふぞくえんまつり」を実施し、さまざまな催しを行いました。催しのひとつとして、期間中に「どうぶつ写生大会」を実施し、9月27日まで延長して開催しました。

この写生大会に参加いただいた子どもたちが描いた全ての作品を「どうぶつ写生画展」として展示します。また、参加作品の中から優秀作品として23点を選出し、日本動物園水族館協会中部ブロック写生大会に応募しました。写生画展の会期中、「どうぶつ写生大会表彰式」として、受賞者の表彰を行います。

いずれも子どもたちならではの感性にあふれた素晴らしい作品ばかりです。ぜひ一度、会場に足を運んでご高覧ください。皆さんのご来場を心からお待ちしています。

「どうぶつ写生画展」

- □会 期 平成27年10月17日(土)~11月3日(火・祝) ※10月19日・26日の月曜日は休館
- □時 間 午前9時~午後4時30分
- □会 場 市立大町山岳博物館 講堂
- □入場料 無料(どうぶつ写生画展のみ)



(昨年度の様子)

「どうぶつ写生大会表彰式」

- □期 日 平成27年11月1日(日)
- □時 間 午後3時~
- □会 場 市立大町山岳博物館 講堂
- □対 象 受賞者(各受賞者には直接ご通知します)



(昨年度の様子)

博物館のひろば

大町高校の野外実習

平成27年8月3日(月)実施



長野県立大町高等学校2学年理数科は、毎年、大町市の隣、北安曇郡白馬村にある 競満湿原において野外実習を行っています。生物基礎の単元「植生と遷移」で習うことを事前に野外で観察し、また、郷土の自然に親しむことを目的とした実習だそうです。

博物館では、隣接する青木湖との関係や 湿原の成り立ち、花と昆虫との関係、匂い からわかる植物名などをご紹介しながら、 郷土の自然を楽しく学び、関心を持てるよ うお手伝いをさせていただいています。

八坂小児童クラブでの出張講座

平成27年8月7日(金)実施



夏休み期間中、児童クラブ参加者の小学生を対象に話をしてほしいとの依頼を受け、 大町市立八坂小学校内の八坂小児童クラブで学芸員による出張講座を実施しました。

同児童クラブへは昨年も出向いてお話をさせていただきましたが、今年は指導員先生からの事前の要望をふまえ、前半は博物館を紹介し、登山用リュックサックを背負う体験を行いました。後半はライチョウについて、豊富なスライド画像や動画を交えて説明しました。「次は博物館の展示や付属園のスバールバルライチョウを見てみたい!」との声が聞かれ、今後の学習へつながる活動となりました。

自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウオッチ 「セミのぬけがらを探せ!」

平成27年8月3日(月)実施



今年で3回目になるこの講座は、地球温暖化が自然にどのような影響を及ぼしているのかを知るために、毎年同じ場所でセミのぬけがらを調べ続けることで、その変化から地域への影響について考えるものです。

今回は、過去最多の 407 個のセミのぬけがらが見つかり、ニイニイゼミなどの大町市では珍しい種のぬけがらも発見されました。

ぬけがらの種類の変化から気候の変動を 見ることができるということを学んでいた だき、自然環境の大切さを感じていただけ たのではないかと思います。

さんぱく ふぞくえんまつり

平成27年8月8日(水)~16日(日)実施



山岳博物館付属園とそこで飼育・栽培する動植物について、より身近に感じて親しみをもっていただこうと、昨年に続いて今年も「ふぞくえんまつり」を開催しました。

「ふぞくえんまつり」のさまざまなイベントの中で、「おおまぴょんとあそぼう」には、「おおまぴょん」と今年は松本山雅FCオフィシャルマスコットの「ガンズくん」が登場し、ふれあいながら、飼育動物への理解を深めていただきました。また、動物の特徴などを飼育員にたずねたり、スタンプラリーに参加したり、飼育動物を熱心に観察する姿が見うけられ、思い思いの夏休みをお過ごしいただけたのではないかと思います。

博物館実習

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。

・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方 (入場の際、受付にてお名前等をご記入ください)

・大町市内在住の 65 歳以上の方

平成27年8月5日(水)~9日(日)実施



当館では、学芸員の有資格者となるために博物館実習を希望する大学生の受け入れを毎年行っています。本年度は、愛知大学地域政策学部、松本大学総合経営学部、東京農業大学農学部の学生3人を受け入れました。

当館での実習は、博物館における実践的な側面の学習に主眼をおいて実施しており、「こども夏期だいがく」などの教育普及活動を中心にして、博物館業務全体について実習を行っていただきました。5日間という短期間の実習ですが、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただけたと思います。

チョウの観察会(3回目)

平成27年8月9日(日)実施



信州大学山岳科学研究所との連携企画展「大北・安曇野の自然に蝶が舞う」(平成 28年2月13日(土)~4月10日(日))の事前学習会「チョウの観察会」を3回にわたり開催してきましたが、この度が最終回となりました。

3回目のこの度は、これまでに得られた チョウの写真や観察のデータをもとに、 チョウの調べ方やデータのまとめ方につい て講師の江田慧子さんと中村寛志さんから ヒントを得ながら学んでいただきました。

まとめた結果は、夏休み明けに自由研究 として、大町市科学振興会などに提出され、 審査されるものと思われます。

編集・発行



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1 市立大町山岳博物館 編集責任者 鳥羽章人 TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133 区 E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp URL:htt://www.omachi-sanpaku.com

10 月号

第60巻第9号

発行日 2015 (平成 27) 年 9 月 25 日

印刷 有限会社北辰印刷 〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1 TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010